事例No.	1909
公表年度	R4
団体の属性	都道府県
団体名	兵庫県

事例区分	公営企業

タグ	・病院事業 ・組織改革 ・人材確保・育成

事例種類	広域化等

事例内容・タイトル

県立病院と公的病院の再編

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【兵庫県】
県立病院と公的病院の再編

広域化等　病院事業

兵庫県病院局企画課

● 取組の概要

①地域の中核病院である兵庫県立柏原病院と柏原赤十字病院を統合再編し「兵庫県立丹波医療センター」を開設するとともに②柏原赤十字病院の在宅療養機能等を引き継いだ「丹波市立丹波健康センター（ミルネ）」を一体整備した。

◆総事業費　212億円

◆背景

- 両病院が位置する丹波圏域において、高齢化の進展により急性期だけでなく回復期機能の需要が増加。
- 両病院は施設の老朽化が進んでおり、大学派遣医師の減少により医療機能が低下。
- 高齢者が住み慣れた地域で暮らせるよう高度医療・予防医療・リハビリ・在宅療養まで連携した地域包括ケアシステムの構築が必要になっていた。

◆具体的内容

- 新病院において、急性心筋梗塞、脳卒中などの急性期機能を充実するとともに、回復期にも対応できる幅広い医療を提供（急性期204床/回復期112床/感染症4床）。
- 地域医療を担う医師等へ研修環境の整備及び多様で魅力ある研修プログラムを提供。
- 「丹波健康センター」内に、総合診療センター（休日診療所・健診センター・総合診療所・訪問看護ステーション）・市保健センター等を設置。

◆効果

・丹波圏域の中核的な医療機関として地域医療の充実に寄与している。

・統合再編により急性期から慢性期、回復期まで幅広い医療を提供することで症例数等が増加した。それに伴い医師数も増加している。

（医師数（研修医含む）平成26年4月:38名→令和元年7月:48名　診療科:19科→27科）

● 取組のポイント

- 回復期医療として、回復期リハ病床45床、地域包括ケア病床45床、緩和ケア病床22床などの回復期病床を整備。
- 「丹波健康センター」の内、予防医療・在宅療養を担う総合診療センターについて、兵庫県が指定管理し新病院と一体的に運用（ハイブリッド施設）。
- ハイブリッド施設を活かし、急性期から回復期、終末期の入院診療、総合診療外来から在宅診療まで幅広い分野について、地域医療を総合的に学ぶことができる魅力ある環境を提供。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　98,635人（令和4年11月時点）
- 行政区域内面積　870km²（令和4年7月時点）
- 許可病床　320床（令和元年7月開院時点）

統合再編イメージ



● 取組のスケジュール

- 平成26年9月　統合再編基本方針制定
- 平成27年9月　基本計画策定
- 平成29年3月　工事着工
- 令和元年7月　開院

● 今後の展望

- 地域の医療機関との更なる連携を図り、圏域における地域包括ケアシステムの拠点としての役割を引き続き担っていく。
- 充実した指導体制、研究環境を確立し、若手医師等の多様なキャリア形成が可能となるよう、質の高い教育・研修を引き続き実施していく。